

# I 研究の全体構想

学校教育目標

「よかところ 富江！はばたけ 世界へ！」

## めざす子ども像

- ともに学ぶ子（知）
- えがおと夢のある子（徳）
- みがき合う子（体）

- 基礎基本の習得にねばり強く取り組むことができる。
- 自分の考えや思いをもち、表現できる。
- 聞く力、話し合う力を身に付け協力して学び合うことができる。

## 授業改善

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の習得のための指導方法の工夫・改善
- 2 活用する力を高めるための指導方法の工夫・改善
- 3 学力調査等の分析と考察

## 学習環境の整備

- 1 学習意欲を支えるための学習環境の整備
- 2 学習習慣を育てるためのPTAや家庭との連携
- 3 各種調査の分析と考察

## 《 研究仮説 》

算数科指導において、指導方法を工夫したり、学習支援体制を改善したりすることで、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、学んだことを活用できる子どもを育てることができるであろう。

## 《 研究主題 》

基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、学んだことを活用できる子どもの育成  
～ 算数科指導の工夫・改善を通して ～

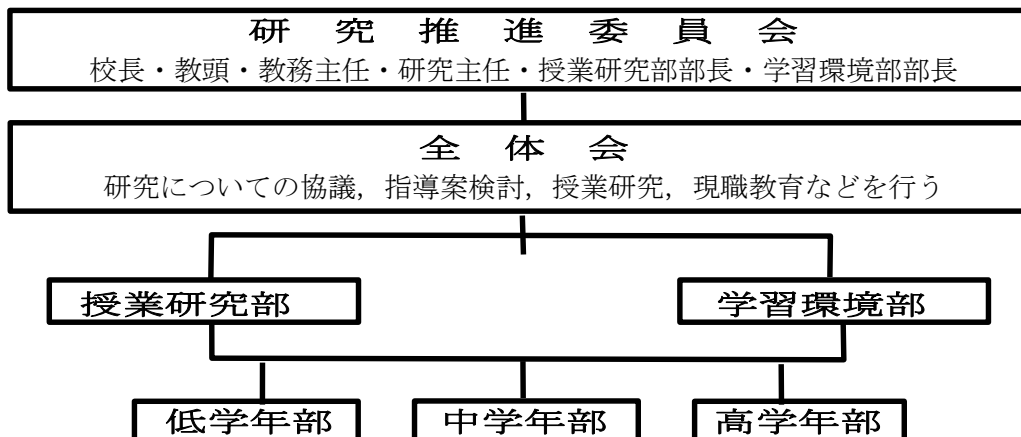
学習指導要領に書かれている基礎的・基本的な知識・技能を習得し、習得したものを基に、思考力や表現力を働かせ、新たな問題を解決していこうとする子どもを育成する。

～ 算数科の授業、スキルタイム（習熟の時間）、家庭学習など算数科指導の工夫・改善を行う ～

## 《 子どもの実態 》

- 基礎的・基本的な学習内容の定着が十分でない子どもがいる。
- 題意をとらえる力、根拠を明らかにして説明する力が不足している。
- 問題文を読み解く力が不足している。読書量が不足している。
- 家庭学習の取組が不十分である。

## 研究組織



## Ⅱ H28年度 授業研究部の取組

学習指導要領に書かれている基礎的・基本的な知識・技能を、単元および1単位時間内に確実に身に付けさせるためにはどのような指導方法が必要かについて追究する。また、習得したものを基に、思考力や表現力を働かせ、新たな問題を解決するといった活用力を高めるような場면을、単元の中に意図的に仕組む。

### 1 授業の基本的な流れ（問題解決的学習）

**つかむ** 前時のふりかえり，問題，めあて

#### めあてについて

問題を通して，本時でどんな学習をするかを「めあて」とし，できるだけ疑問の形で書く。

**見通す** 見通し（考えるための足がかり）

#### 見通しについて

- ・ 答えの予想（予想）
  - ・ どこに目をつけるか（視点）
- } 問題全体をつかむ
- ・ どうやって解くか（方法）
  - ・ 何をを使うか（手段）
- } 解決方法を類推する

**解決する** 課題解決  
↓  
(個・ペア・グループ・一斉)

#### 課題解決について

- ・ 個人での解決の時間を保障する。
- ・ 解決したことを他の誰かに伝える機会を設ける。（説明する活動）

**まとめる** めあてに連動したまとめ

#### まとめについて

まとめは，めあてに対応するような言葉で書く。

**確かめる** 練習問題（適用問題）

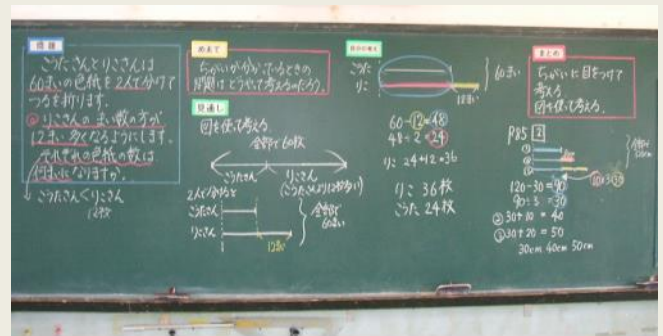
#### 練習問題（適用問題）に取り組む

授業の終末に本時のねらいに即した答え方を意識して問題に取り組ませる。

### 2 授業の板書

構造的な板書に心がける。

(問題・・・青，めあて・・・赤，まとめ・・・赤，その他強調したいところ・・・黄や赤)



### 3 子どものノート指導

《書く内容》

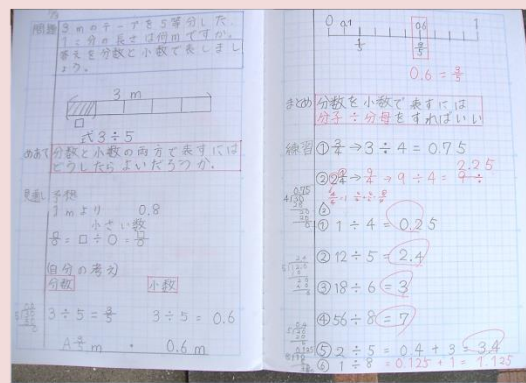
日時，問題，めあて，予想や見通し，自分の考え・友達の考え・問題の解き方，まとめ，練習問題

《書き方》

えんぴつで書く，下敷きを使う，線は定規で引く，大事なことは色ペンで囲む（問題・・・青，めあて・・・赤，まとめ・・・赤），蛍光ペンで字を書かない。

《工夫したノート作り》

3年以上は，ノートは5ミリ方眼を使う。見開き2ページを基本とする。高学年は，自分の気づきやメモ，教師の言葉の大事な事柄をポイントとしてまとめたりするなど，ノート作りに工夫を加える。



# Ⅲ 学習環境部の取組

## 1 学習意欲を支えるための学習環境の整備

### (1) 「学びの場」の設定

①朝の「スキルタイム」の設定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:10～	読書タイム	音読(5分)		フッ化物洗口	音読(5分)
		計算	言葉の指導		文章問題
8:25		10分間			10分間

#### ②学習環境の整備

- 「学習用具」の整備
- 「掲示板」の活用

#### ③放課後「学習会」の実施

#### ④「サマースクール」の開催



### (2) 読書活動の充実

- ①「すき間時間読書」の励行（「図書バッグ」の活用）
- ②朝の「読書活動」の充実（「図書ボランティア」による読み聞かせ）
- ③利用しやすい学校図書館づくり（「図書支援員」との連携）



## 2 学習習慣の定着を図るためのPTAや家庭との連携

### (1) 「子どもの学びの習慣化」による啓発

### (2) 「家庭学習の手引き」による家庭学習の習慣化

（観示用） 子どもの学びの習慣化 玉島市立富江小学校

子どもの学びの習慣化のために、「心」が「眼」が「鼻」の生活リズムを整えよう。

学校と共に子どもを育てよう!!

○学習に集中できる子ども  
○学ぶ意義を考え、学ぶ習慣が身についた子ども  
○自らの生き方を考える自主性のある子ども

4つの宣言

宣言1 家庭学習の習慣を!  
宣言2 読書に親しむ習慣を!  
宣言3 朝食をしっかりとする習慣を!  
宣言4 睡眠時間をしっかりとる習慣を!

家庭学習の習慣を!

家庭学習の目的は、読書や学習する習慣を身に付けることです。読書や学習への意欲は、子どもの成長のための大切な要素です。家庭での読書や学習の習慣を身につけ、生活リズムを整えよう。

読書や学習の習慣を身に付けるには、次のことを心がけてください。

＜読書や学習の習慣を身に付けるために＞  
○学習する時間や場所を決めて取り組む。  
○テレビやゲーム、パソコンなどを勉強の邪魔をしない。

＜読書に親しむために＞  
○読書する時間や場所を決めて取り組む。  
○テレビやゲーム、パソコンなどを勉強の邪魔をしない。

＜朝食をしっかりとするために＞  
○朝食を食べる習慣を身に付ける。  
○朝食を食べる習慣を身に付けて、子どもの生活リズムを整えよう。

＜睡眠時間をしっかりとるために＞  
○睡眠時間をしっかりとる習慣を身に付ける。  
○睡眠時間をしっかりとる習慣を身に付けて、子どもの生活リズムを整えよう。

【家庭学習】の手引き

1. 【家庭学習】の目的  
【家庭学習】の目的は、学力をつけることが直接の目的ではありません。【家庭学習】の目的は、

家庭での「学習習慣」を身につける

ことです。【家庭学習】が習慣化することで、努力したり継続したりする心を育むこともできます。

2. 【家庭学習】時間のめやす  
本校の「学びの習慣化」の中に提示してあるように、

＜家庭学習時間のめやす＞  
□低学年・・・30分～1時間  
□中学年・・・1時間～1時間半  
□高学年・・・1時間半～2時間

をめやすとして、子どもに合った時間を決めることが大切です。

3. 【家庭学習】で取り組むこと  
【家庭学習】の習慣化を図るためには、

「心」が「眼」が「鼻」の生活リズムを整えよう。

※学級通信や学級懇談などで啓発を図るとともに、子どもの家庭学習の取組を紹介したり、がんばっている子どもを賞賛したりすることで家庭学習の習慣化を図る。

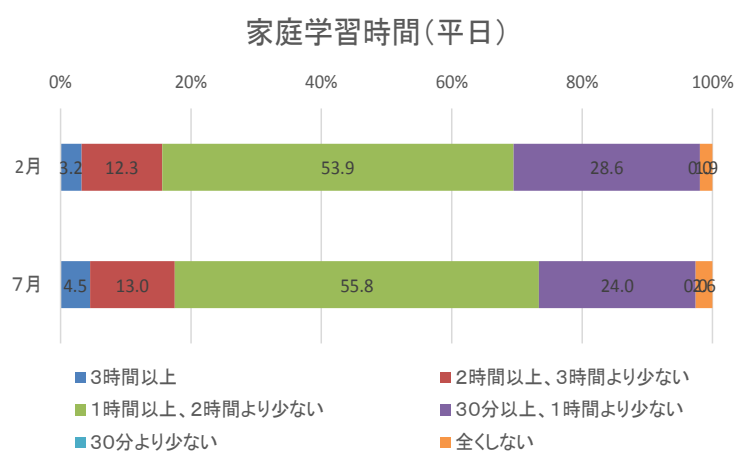
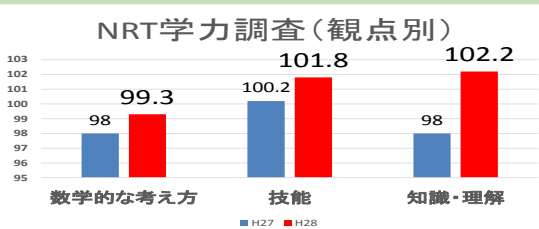
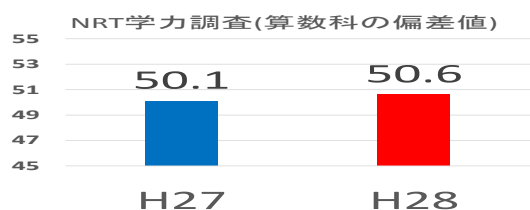
## 3 各種調査の分析と考察

※「算数科に関する意識」と「生活実態」のアンケート調査を実施し、それぞれの結果を分析・考察して、指導法の改善に結びつけたり、保護者との連携に生かしたりする。

## Ⅳ 成果と課題

### 《 成 果 》

- 学習過程をそろえ、それを基本に全職員で授業を行ったことで、教師と子どもたちが授業の流れを共有することができた。このことにより、子どもたちは学習を見通しながら進めることができ、作業能率等が向上した。
- 見開き2ページを使ったノート作りや、板書の仕方の共通実践を行ったことにより、学習の内容が整理され、分かりやすい授業につながった。
- 前時までの既習事項を掲示したり、ICTを使って振り返りをしたりすることで、学習のつながりを意識させることができた。
- 話し合い・学び合いの場をつくることで、普段、思いを表現できない子どもたちも、手本となる友達の真似をして、考えを表現できるようになってきている。
- 自力解決の中で自分の考えを書かせる取組をしてきたことで、文章や図などを使ってノートに解き方を書く力が育ってきた。
- スキルタイムで取り組む計算や文章問題の中で、解き方のポイントや確認事項などクラス全体で共有することができた。また、下学年の復習ができ、現学年の学習に生かした。
- スキルタイムで毎日のように音読を行うことで、音読の習慣がついていない子どもにも確実に取り組ませることができた。
- 「子どもの学びの習慣化」による家庭への働きかけにより、朝食を食べてくる子どもが増え、集中して1時間目から学習に取り組むことにつながっている。
- 学級懇談会で「家庭学習の手引き」をもとに話し合いをもつことで、保護者の意識も高まり、家庭学習への取組が定着してきている。



### 《 課 題 》

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分な子どもの支援をするとともに、もっと難しい問題にチャレンジしたいと思っている子どもに対応することができていないので、そのような子どもの願いをかなえるような環境を整えることも必要である。
- 自分の考えを話す力は弱い。全体場で友だちに向かって、あるいは、ノートを見ながら隣の席の友だちに、自分の考えがよく伝わるように説明する力を育てたい。
- 「活用する力」を高めるためには「活用することのよさ」を味わわせることが大切である。有用性、簡潔性、一般性、正確性、能率性、発展性、美しさなどを「実感を伴って味わう」ことができるよう指導をすることが大切である。
- 家庭学習に取り組んでいる子どもへの、全校的な評価と賞賛の場の設定が必要である。